

桜門体育学会 令和2年度(第11回)大会 講演



自主創造
日本大学

「新型コロナウイルスの危機管理と リスクコミュニケーション」

日本大学危機管理学部 福田 充

2021年1月17日～23日

福田充研究室 E-mail: fukuda.mitsuru@nihon-u.ac.jp

Web: <http://fukuda326.o.oo7.jp/>

Twitter: fukuda326

© 2021 Mitsuru Fukuda

福田充研究室の危機管理・調査研究の履歴（1995年～2020年）

- 1995年
阪神淡路大震災 現地調査
オウム地下鉄サリン事件 東京都民調査
- 1996年
災害警報実験研究／ラジオ(東海地震警報・毒ガス事故)
- 1997年
災害警報実験研究／テレビ(東海地震警報)
- 1998年
ドイツにおける緊急事態対処の現地調査
地下街・高層ビル等過密空間の地震対策調査
秋田県鹿角市八幡平地すべり・土石流災害 現地調査
- 1999年
JCO臨界事故 現地調査
那須集中豪雨災害 現地調査
大阪NTT回線事故の社会的影響に関する調査
2000年問題に関する研究
- 2000年
イギリスにおけるテロ対策ヒアリング調査
企業の地震防災対策と帰宅困難者問題に関する調査
- 2002年
社会安全・危機管理に対する意識と社会教育・マスコミ報道に関する調査研究
- 2003年
自治体への火山に関する地域防災計画調査
自治体への津波に関する地域防災計画調査
- 2004年
十勝沖地震津波 現地調査
新潟福島豪雨水害 現地調査
新潟県中越地震 現地調査
- 2005年
アメリカにおけるテロ対策研究 視察調査
JR尼崎事故(JR福知山線事故) 現地調査
福岡県西方沖地震 玄海島 現地調査
兵庫県豊岡水害 現地調査
和歌山県広川町津波防災政策 現地調査
- 2006年
原子力のリスク・コミュニケーション調査
- 2007年
能登半島地震 調査
原子力発電所職員に対するヒアリング・アンケート調査
- 2008年～2010年 米国在外研究
コロンビア大学戦争と平和研究所客員研究員
- 2011年
東日本大震災 現地調査(岩手・宮城・福島・茨城)
福島第一原発事故 現地調査
- 2012年
福島第一原発事故 アンケート調査
北朝鮮ミサイル発射実験問題 調査
熊本大水害 現地調査
- 2013年
.....

※以降省略

日本大学危機管理学部 教授
日本大学大学院新聞学研究科 教授
博士(政治学)

警察政策学会会員 テロ安保部会会員
日本政治学会会員
日本災害情報学会会員 など学会会員
内閣官房有識者会議委員
厚生労働省委員会委員、埼玉県国民保護委員など

報告の構成

第1部 危機管理学とは何か？

第2部 危機管理の4機能モデルからみた
新型コロナウイルス

第3部 新型コロナウイルスと
リスクコミュニケーション

第1部

危機管理学とは何か？

現代は「リスク社会」

●社会を襲う多様な「危機」

- ・地震、津波、台風、豪雨、洪水など**自然災害**
- ・原発事故、交通機関事故など**大規模事故**
- ・殺人、誘拐、暴行、詐欺などの**犯罪**
- ・テロリズムやミサイルなど**国民保護事案**
- ・戦争、紛争、難民問題などの**国際安全保障**
- ・情報流出、サイバー攻撃など**情報セキュリティ**
- ・新型ウイルスや感染症による**パンデミック**

※「オールハザード・アプローチ」による「危機管理学」。

ベックの再帰的近代化論

ウルリッヒ・ベック(1986) 『危険社会』

「かつては『外界(神・自然)』を原因として発生したリスクが人々を苦しめていた。それに対して、今日では歴史的に新しい性質をもったリスク、すなわち**科学の構造と社会の構造にその原因を持つリスク**が問題になっている。」

【再帰的近代化】

- ・人々の生活を安全に危機管理するための科学技術・社会制度
 - ・その科学技術・社会制度が新しい危機(リスク)を生み出す
 - ・その科学技術・社会制度の危機管理するための技術・制度
- ※ 永遠に繰り返されて終わらない危機管理＝近代化

ベックの「再帰的近代化」

『外界（神・自然）』を原因として発生したリスク

地震・台風・津波などの自然災害

新型コロナウイルスなどの感染症

農業・漁業などの不況

科学の構造と社会の構造にその原因を持つリスク

原発事故・航空機事故などの大規模事故

リーマンショックなどの金融危機・世界恐慌

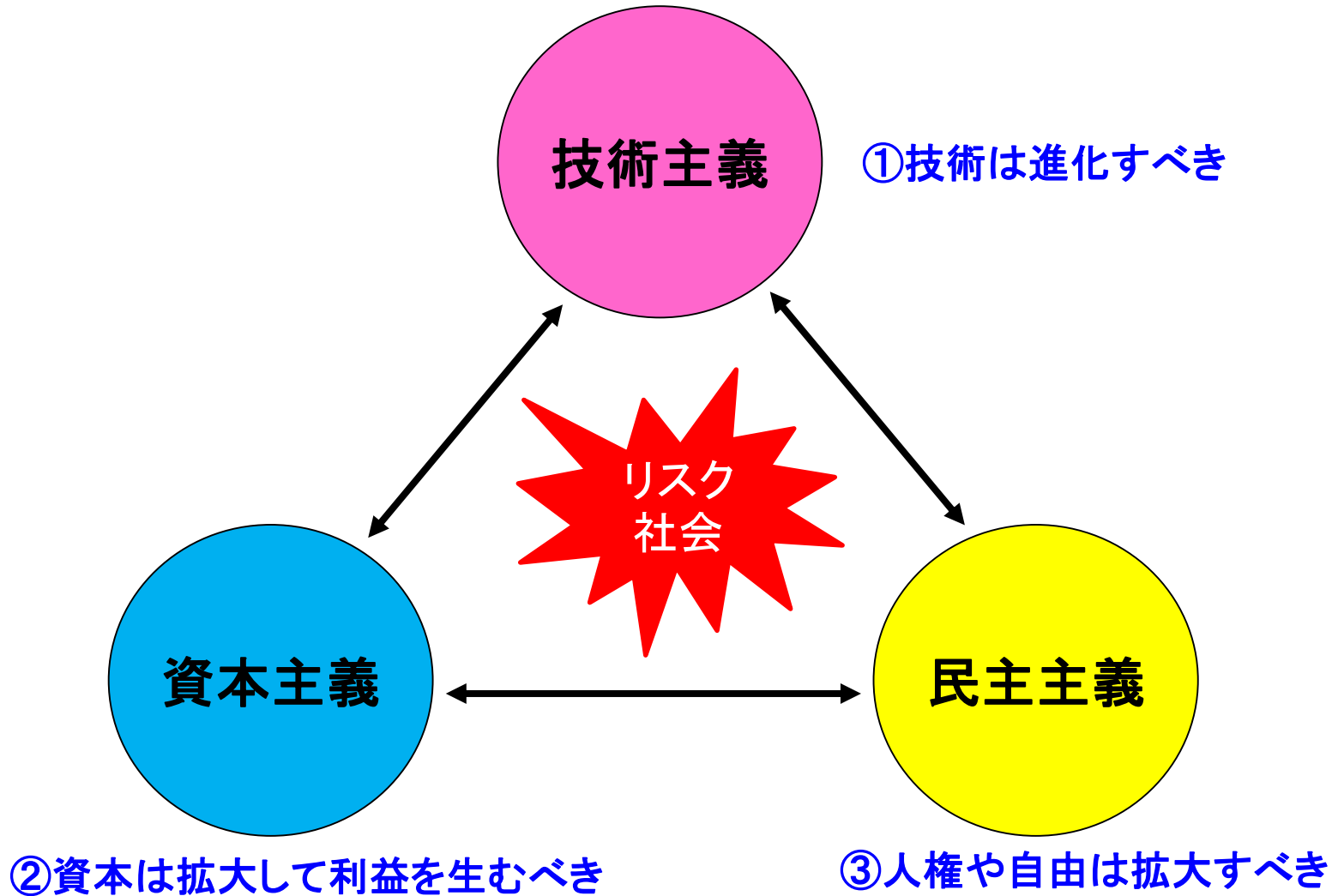
ミサイル攻撃などによる戦争・紛争

遺伝子工学による遺伝子操作のリスク

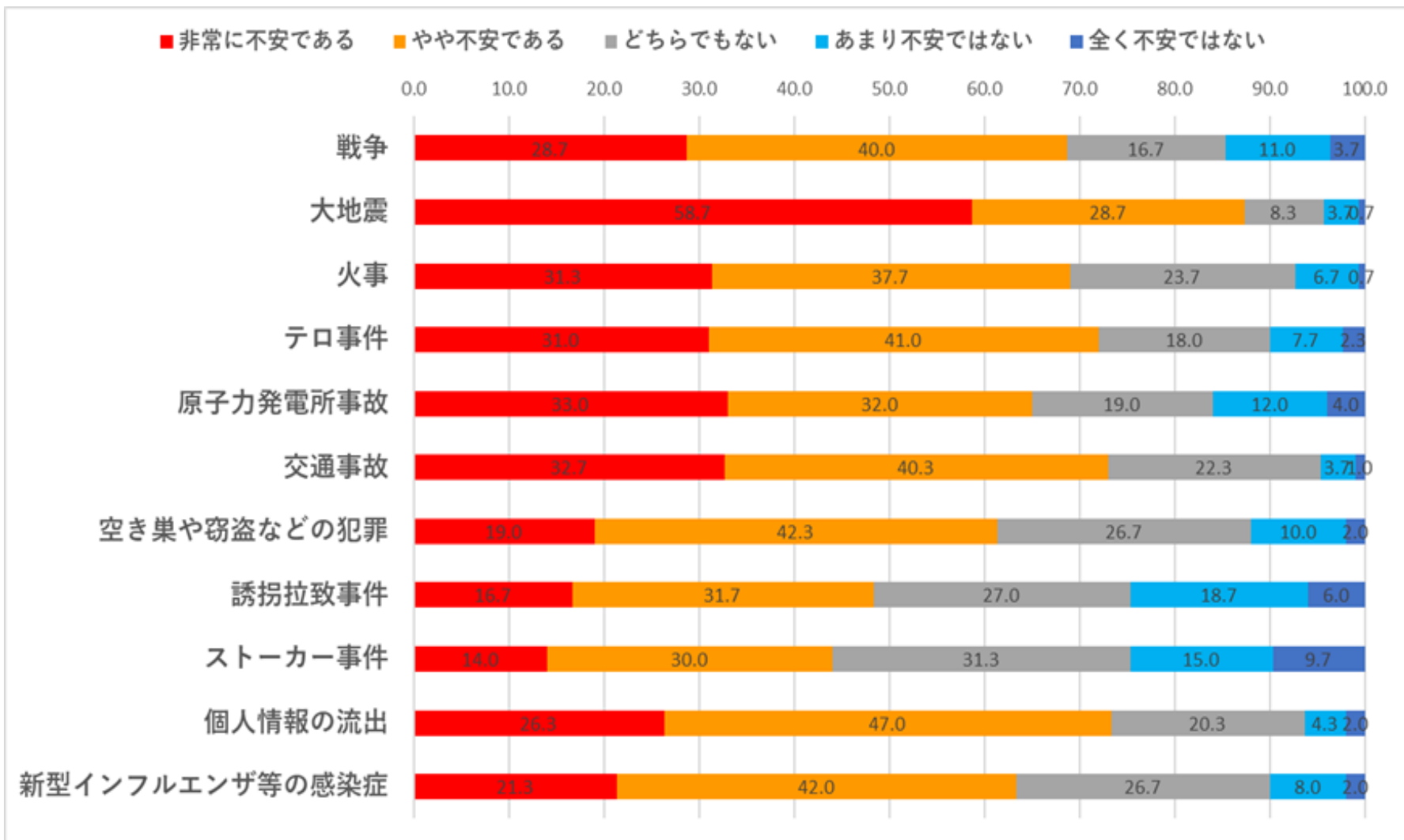
環境破壊・気候変動

②すべてのリスクがつながっている。因果関係。

近代化モデル

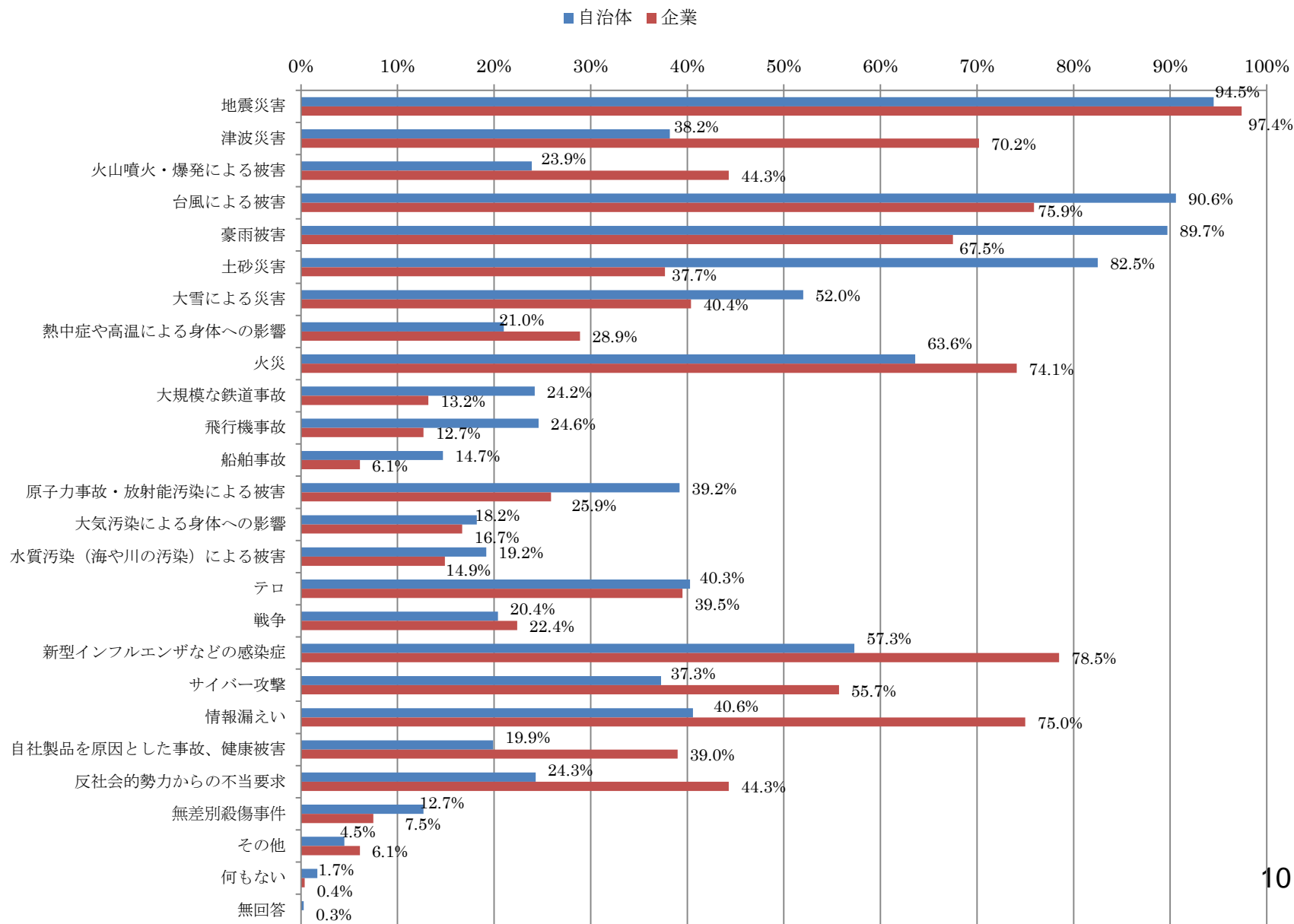


日本人のリスク不安 福田(2019)



※ オールハザード・アプローチの必要性

自治体・企業が想定している危機 福田ら(2016)



オールハザード・アプローチ

新型コロナウイルスも危機管理学の対象

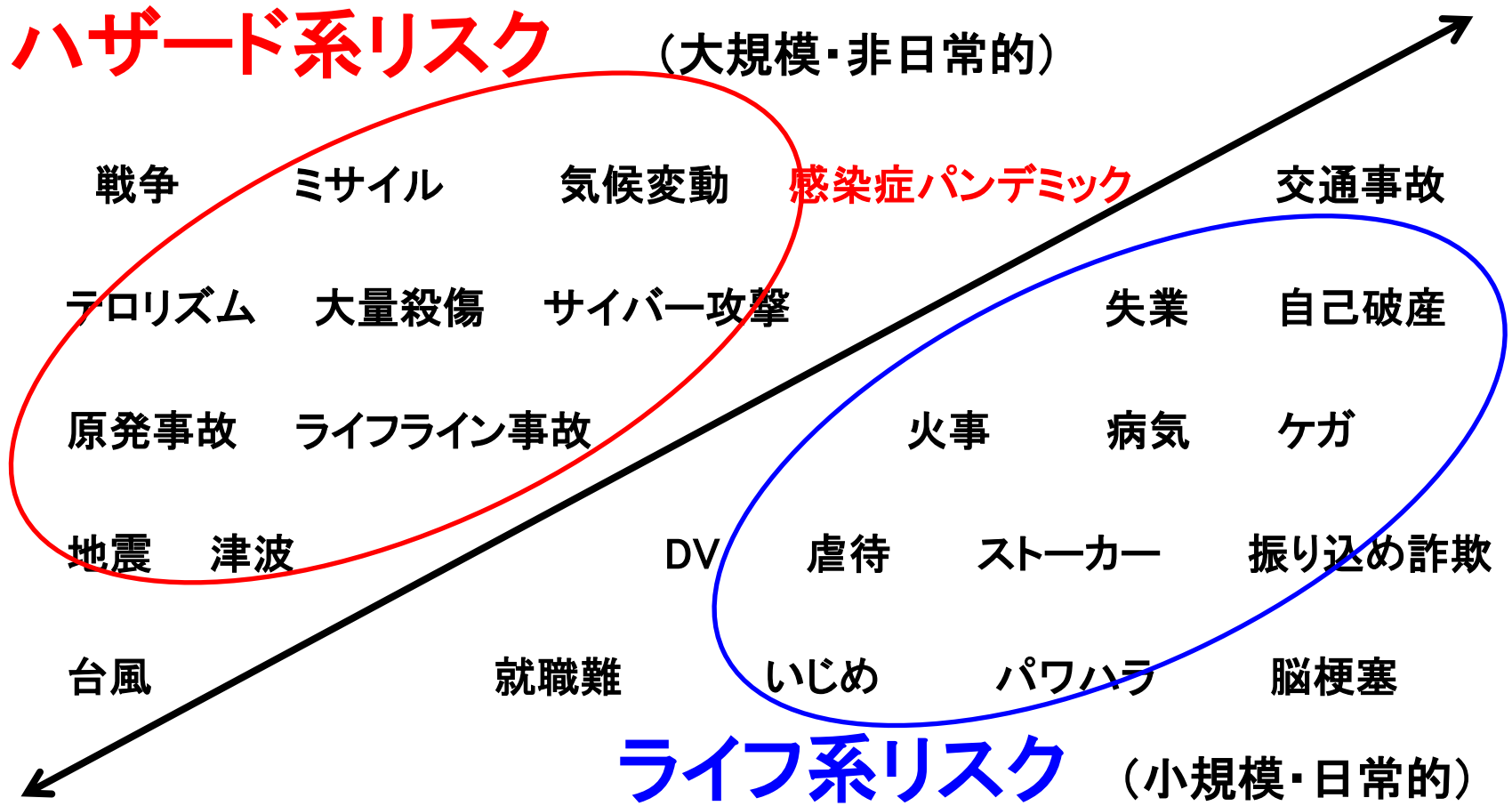
危機管理学＝オールハザード・アプローチ

All Hazard Approach

すべての 破滅的危機 を対象にする

地震や台風などの自然災害、犯罪やテロリズム、ミサイルや戦争・紛争、情報流出やサイバー攻撃、ネット炎上、感染症パンデミックなどすべての破滅的危機を対象にする危機管理学。

オールハザード・アプローチ



危機管理学の構造

		オールハザード・アプローチ							
		自然災害	大規模事故	犯罪	テロリズム	戦争紛争	環境問題	情報流出	パンデミック
学際的アプローチ	法学								
	政治学								
	社会学								
	経済学								
	心理学								
	都市工学								
	情報工学								
	土木工学								
	地質学								
	気象学								
	医学								

第2部

危機管理の4機能モデル からみた 新型コロナウイルス

**「新型コロナウイルスの
危機管理に
日本は成功したのか？」**

新型コロナウイルス 初の緊急事態宣言

2019年11月 中国武漢

謎の**新型肺炎** 発生

2020年1月

新型コロナウイルス 日本へ

3月 **新型インフルエンザ等**

対策特別措置法改正

4月8日 **緊急事態宣言** 発出

5月25日 **緊急事態宣言** 解除

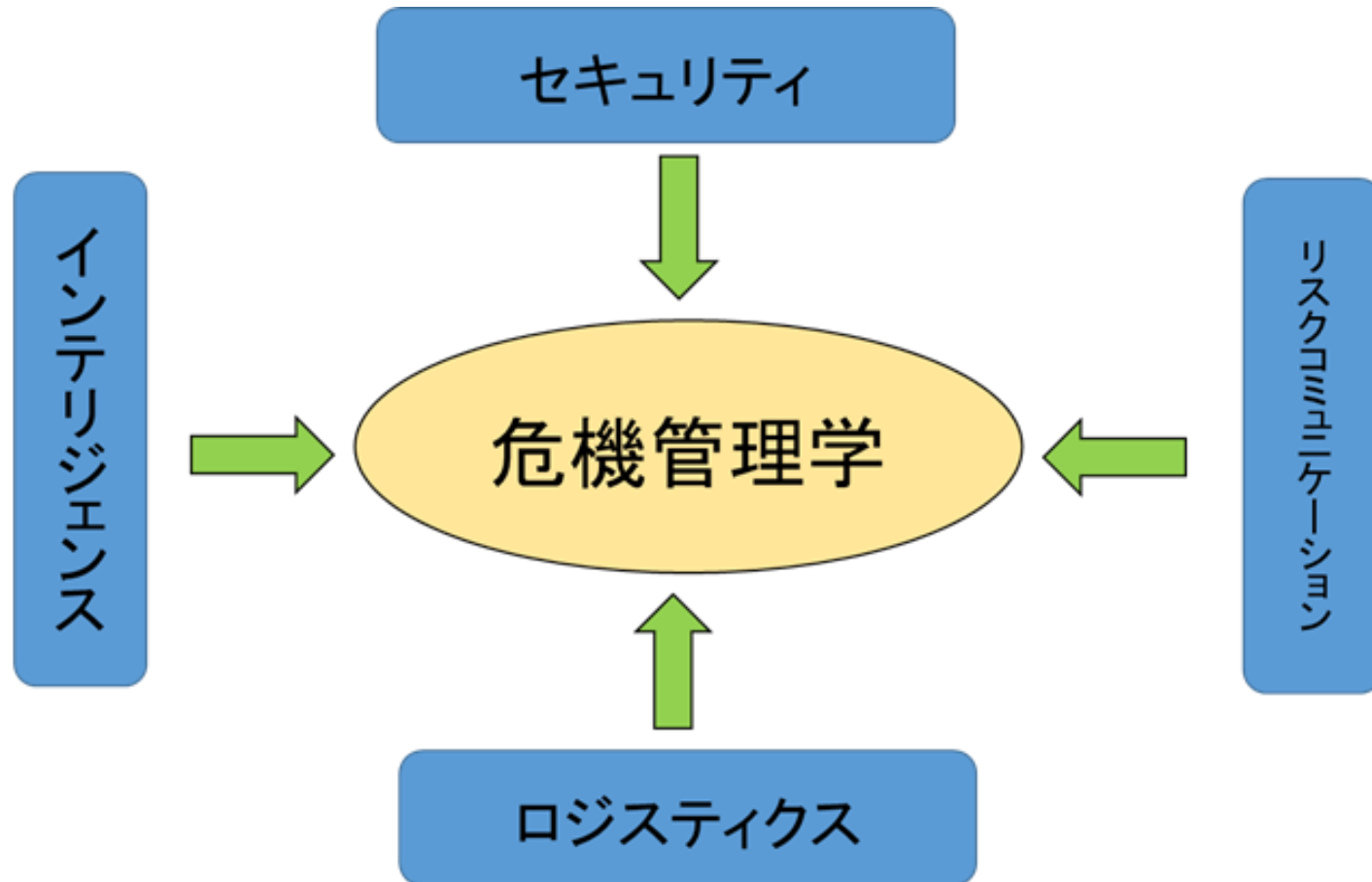
経済との両立 次のステージへ



新型インフルエンザ等 政府行動計画

- (1) 外国や国内での発生状況、動向、原因の情報収集
(インテリジェンス)
- (2) 感染症の蔓延防止に関する措置
(セキュリティ)
- (3) 医療の提供体制の確保のための総合調整
(ロジスティクス)
- (4) 地方自治体、指定公共機関、事業者、国民への情報提供
(リスクコミュニケーション)
- (5) 国民生活や国民経済の安定に関する措置
(セキュリティ・ロジスティクス)

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



「危機管理」とは？

①危機に関する情報を収集し、分析する。

= インテリジェンス

②危機の発生と拡大を食い止める対策をとる。

= セキュリティ

③危機への対処に必要な物資を準備し使う。

= ロジスティクス

④危機に関する情報を市民に伝え議論する。

= リスクコミュニケーション

日本型モデルの福田仮説

【目的変数】

【説明変数】

感染者・死者
の抑制
(感染拡大阻止)

- ①日本人の衛生文化(手洗いうがいマスク)
- ②日本人の挨拶文化(握手、抱擁しない)
- ③日本人の生活様式(風呂、靴を脱ぐ)
- ④日本人の遵奉意識・同調圧力
- ⑤日本の医療技術レベルの高さ
- ⑥日本人の教育水準の高さ
- ⑦日本人の遺伝的体質(感染症への強さ)
- ⑧安倍政権による緊急事態宣言
- ⑨外出自粛要請
- ⑩企業の休業要請・リモートワーク
- ⑪学校の休校要請
- ⑫政府・専門家会議のコミュニケーション

【説明変数の効果】(1)

1) 日本のおん統文化の力

- ①日本人の衛生文化(手洗いうがいマスク)
- ②日本人の挨拶文化(握手、抱擁しない)
- ③日本人の生活様式(風呂、靴を脱ぐ)
- ④日本人の同調圧力・お上意識(社会心理的要因)

2) 日本のおん代的社会体制の力

- ⑤日本の医療技術レベルの高さ
- ⑥日本人の教育水準の高さ

3) 日本人の医学的特徴

- ⑦日本人の遺传的体質(免疫・抗体)

【説明変数の効果】(2)

4) 安倍政権による政策

⑧ 安倍政権による緊急事態宣言

⑨ 外出自粛要請

⑩ 企業の休業要請・リモートワーク

⑪ 学校の休校要請

⑫ 政府・専門家会議のコミュニケーション

※これらの政策にどの程度効果があったか？

理論的に検討し、データによる実証して検証するのが政策科学、危機管理学。

新型インフル等対策特措法

「緊急事態宣言」には

外出自粛にも

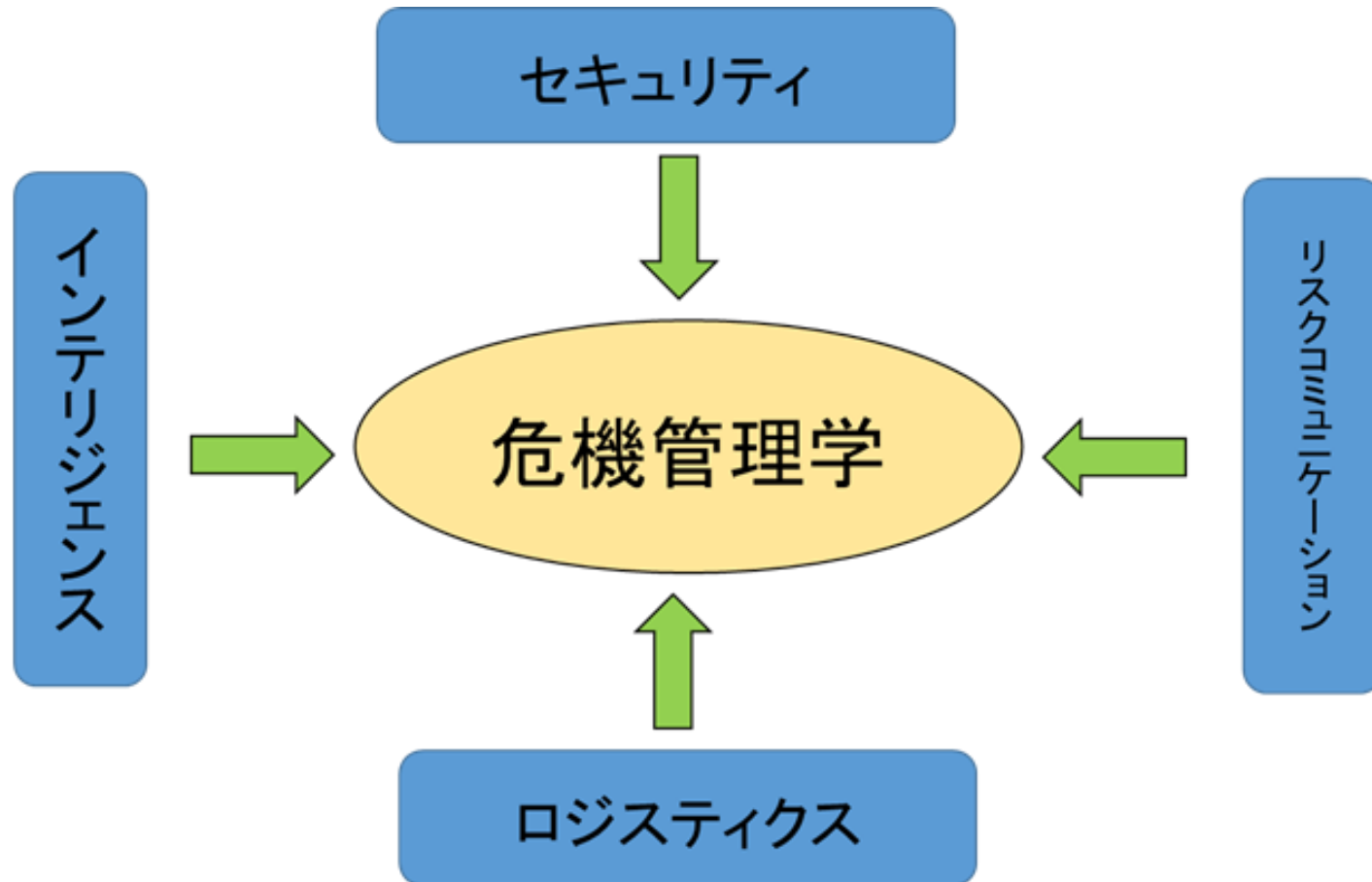
休業要請にも

罰則など法的拘束力がないのに、

なぜ日本の感染症対策は

上手くいっているように見えるのか？

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



1) インテリジェンス

2019年11月

中国湖北省武漢で発生
「謎の新型肺炎が発生」

中国・武漢にも日本人

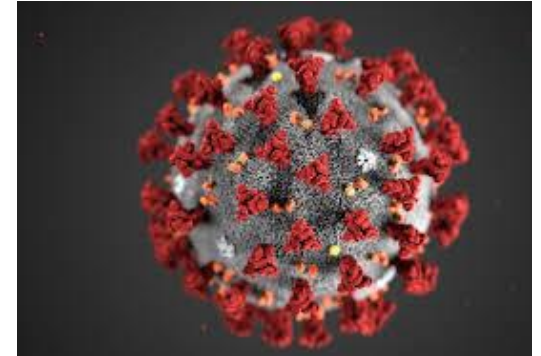
企業・医療・メディア・研究従事者

外務省・厚労省・内閣官房

情報収集・インテリジェンス活動

何をやっていたのか？

機能不全＝初動の遅れにつながる



© CNN



© ロイター

1) インテリジェンス

①日本人の「情報軽視」体質

『失敗の本質』 太平洋戦争の反省

②インテリジェンス活動への誤解

インテリジェンスの戦争・テロ偏重
感染症対策にも必要

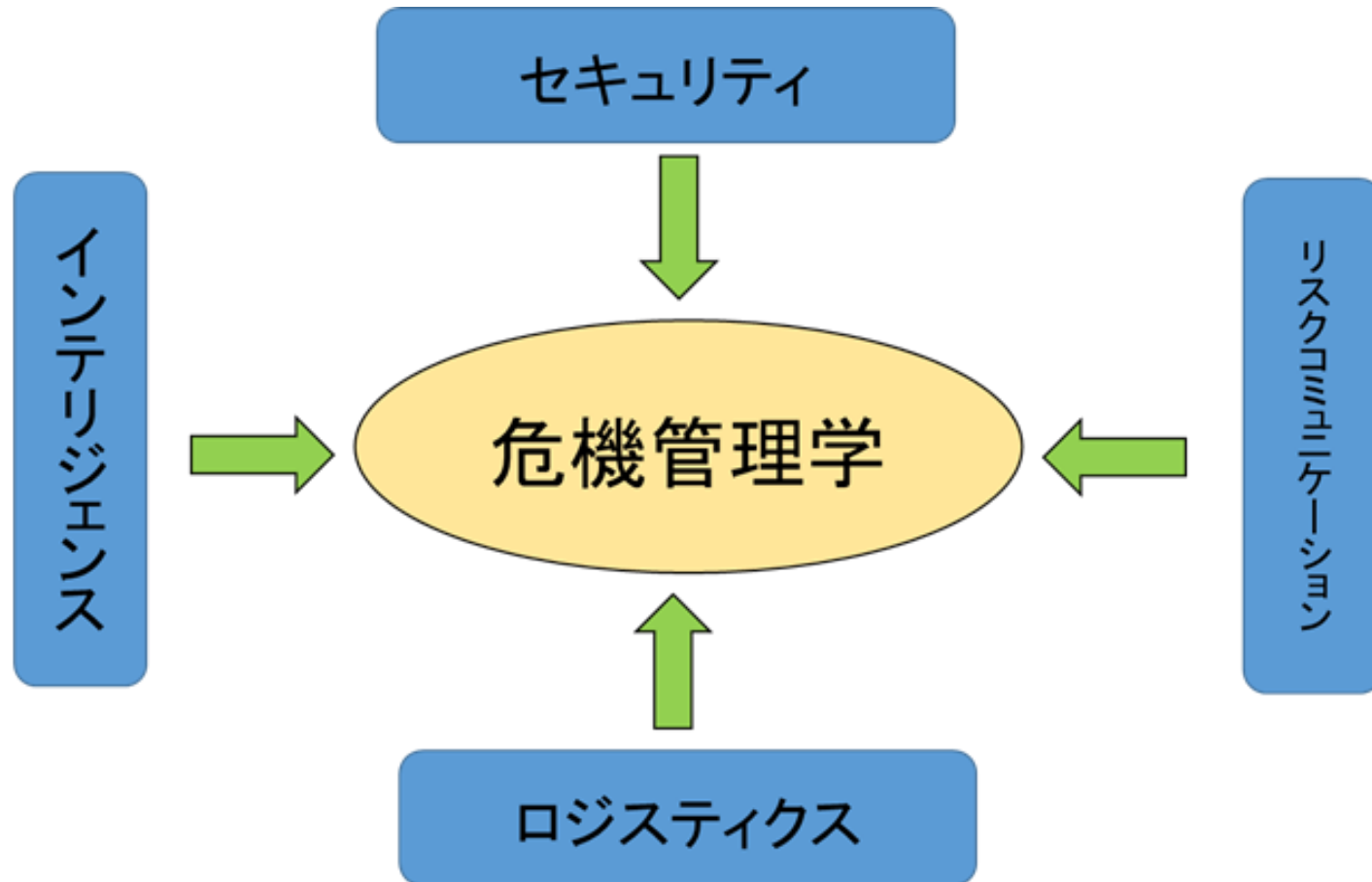
③インテリジェンス対応部署の不在

厚生労働省にも自治体にもない

※インテリジェンスこそ危機管理の根本

※インテリジェンスから戦略が生まれる

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



2) セキュリティ

感染症の蔓延防止に関する措置

① 水際対策

出入国規制・検疫体制の確立

時間稼ぎ＝国内体制確立まで

② 国内の感染拡大防止策

都市封鎖・ロックダウン→ 外出規制

学校休校措置

企業休業措置

※感染拡大につながる人の動きを止める

感染症対策の2大戦略

【目標・ゴール】

日本人の感染者数・死者数を最小化し終息

【戦略】

①ハード管理戦略 / ②ソフト管理戦略

【戦術】

- ・外出自粛要請、県をまたぐ移動規制
- ・企業休業要請、リモートワーク、休校措置
- ・医療体制の構築
- ・専門家会議の「3密を避ける」「新しい生活様式」

「戦略」とは？

【戦略】 ストラテジー

目標、ゴールを達成するために構築するマクロレベルの大きな政策。

【戦術】 タクティクス

戦略をうまく進めるために構築するミクロレベルの具体的な作戦。

※目標達成のためには、戦略が一番重要。

「戦術の失敗は、戦略で補える。

戦略の失敗は、戦術では補えない。」

クラウゼヴィッツ 『戦争論』

①ハード管理戦略

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、
社会の統制を強化し、
都市封鎖・ロックダウンなどの強い法的規制に
より、社会活動、外出移動、経済活動を
一定期間完全に止めることで感染拡大をとめる。

中国・武漢方式。

イタリア、フランスなどもハード管理戦略。

日本の緊急事態宣言はハードではない。

②ソフト管理戦略

経済活動の維持を優先して、
新型コロナウイルスの感染拡大防止のための
社会活動の規制、統制を行わない戦略。
都市封鎖・ロックダウン・外出規制は実施しない。
ゆるやかに国民が感染し、一部に死者が出ても
受け入れる。集団免疫を目指す。

スウェーデン方式。

日本はこの方式は全く考慮しなかった。

ハード管理戦略か？

ソフト管理戦略か？

どちらかでないと成功しない。

日本は、どちらでもない

その中間の戦略のない

「日本型モデル」

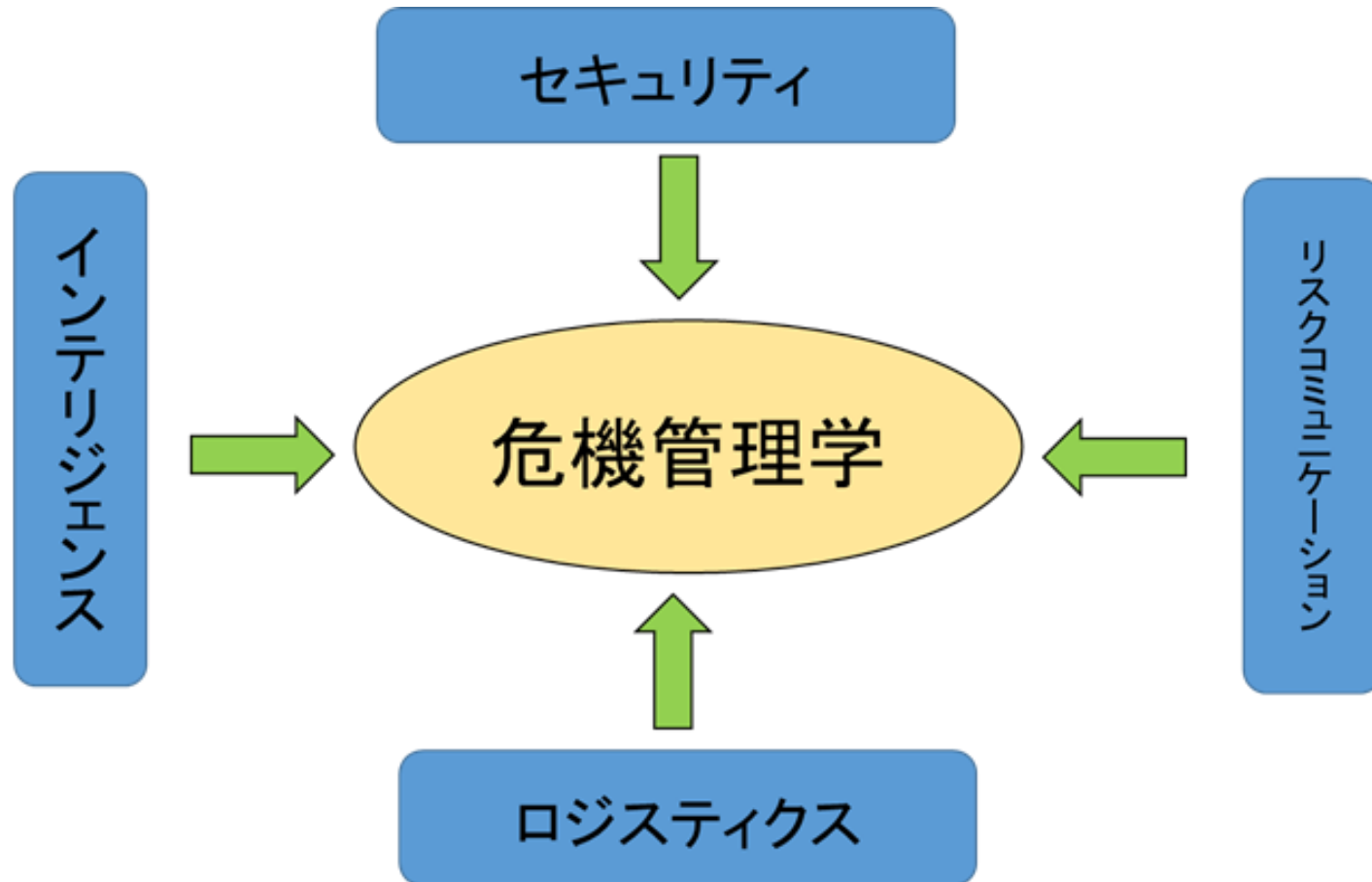
なぜ他国より死者の割合少ないか？

新型インフルエンザ等対策特別措置法

問題点

- ・要件の矛盾 感染力の強さ・全国的蔓延
- ・私権制限のバランス
- ・罰則を伴わない要請
- ・政府と自治体との権限のあいまいさ
- ・都道府県レベル自治体が主体
- ・ボトムアップ・アプローチ(自然災害)
- ・トップダウン・アプローチ(国民保護・安保)

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



3) ロジスティクス

医療の提供体制の確保のための総合調整

ロジが必要なのは病院・医療だけではない

すべてのステークホルダーにロジ確立が必要

- ・政府・自治体
- ・ファーストレスポンドー(警察・消防・自衛隊)
- ・企業
- ・学校・大学
- ・病院
- ・家庭・地域コミュニティ

なぜ遅れたか？ 混乱したか？

準備不足・想定外・ガイドライン不在・訓練不足

3) ロジスティクス

業務継続のためのロジスティクス確立

①病院： 医療サーージは起きるという前提

医療資源の確保＝機材、防護服、マスク、薬
バックアップ＝備蓄、サプライチェーン

②企業： 経済的損失が発生するという前提

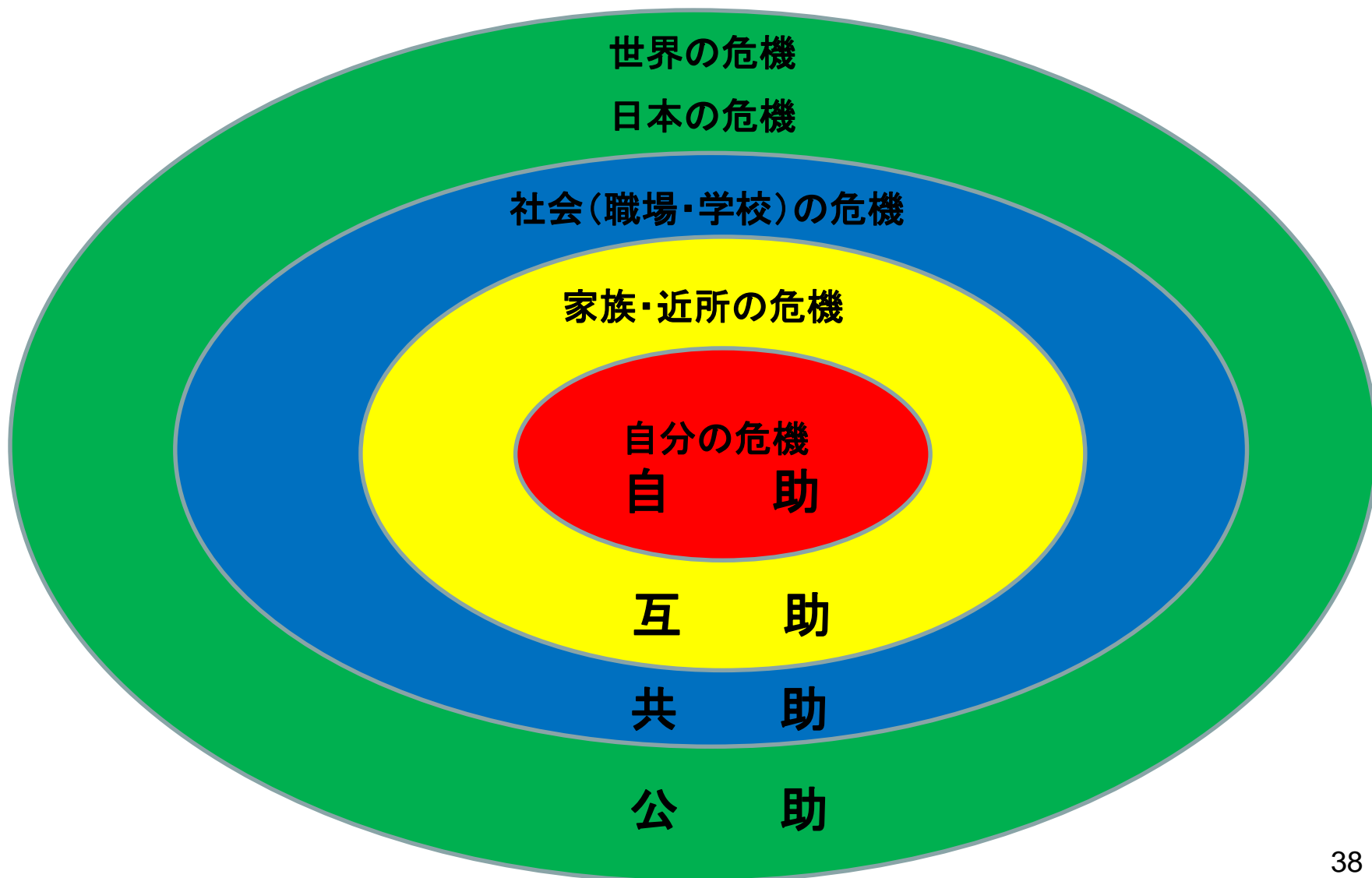
業務継続＝リモート化の準備・推進
バックアップ＝グローバル・サプライチェーン

③家庭： 家庭生活の維持のための備蓄

マスク、殺菌手洗い用品、衛生用品

※感染症パンデミックのBCP・BCM確立

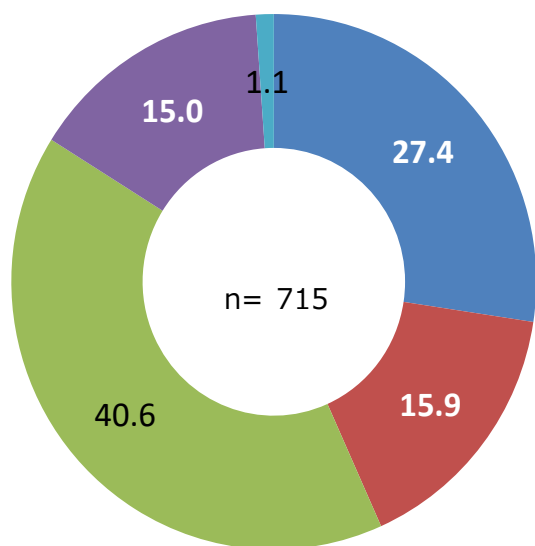
危機のレベル(空間軸)



業務継続計画（BCP）

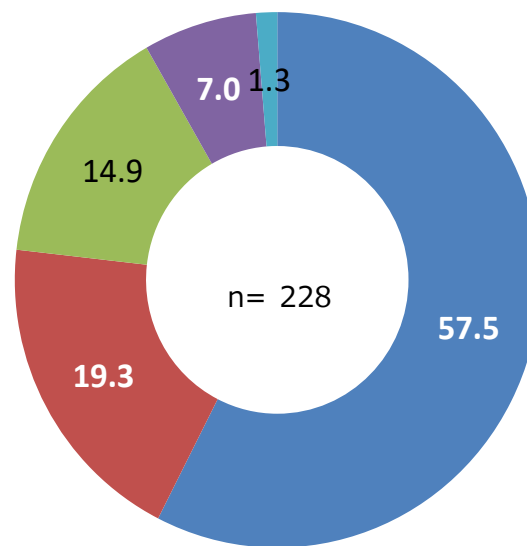
福田充ら(2016) 全国自治体・企業アンケート調査より

【自治体】



- B C P (事業継続計画)を策定済み
- B C P (事業継続計画)を策定中
- B C P (事業継続計画)を策定するかどうか検討中
- B C P (事業継続計画)を検討したことがない
- 無回答

【企業】



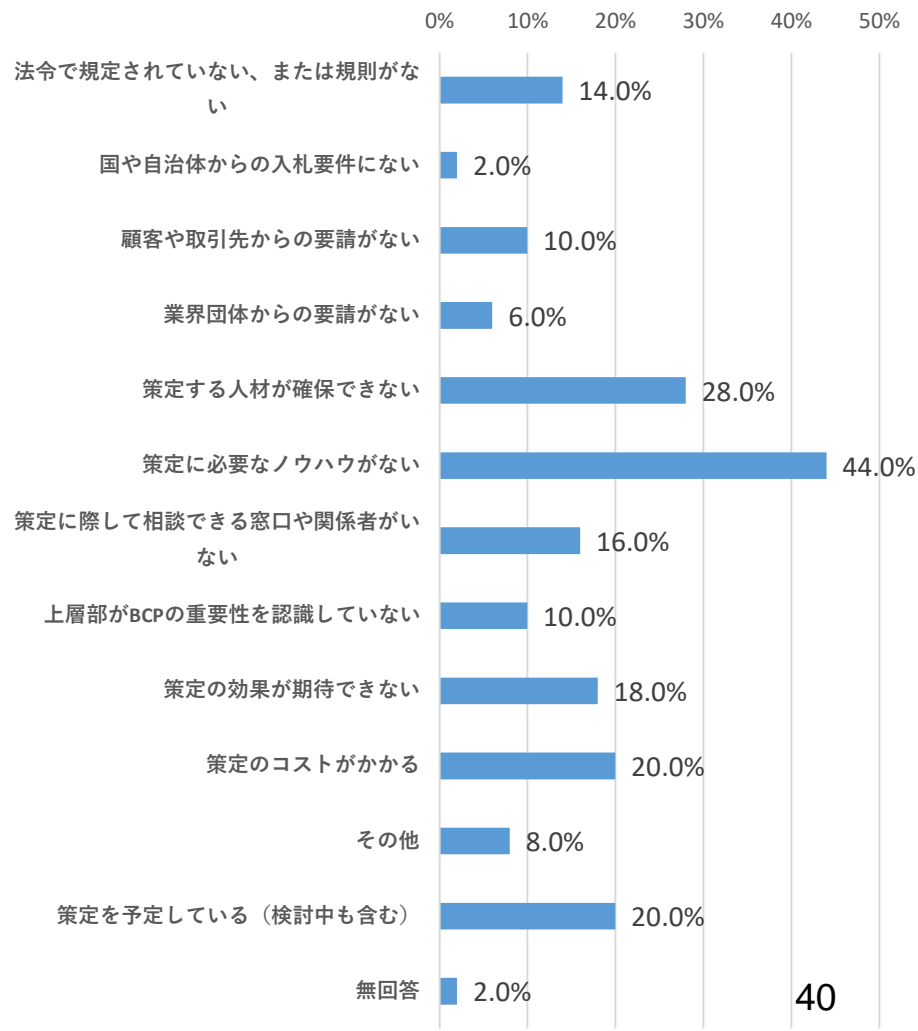
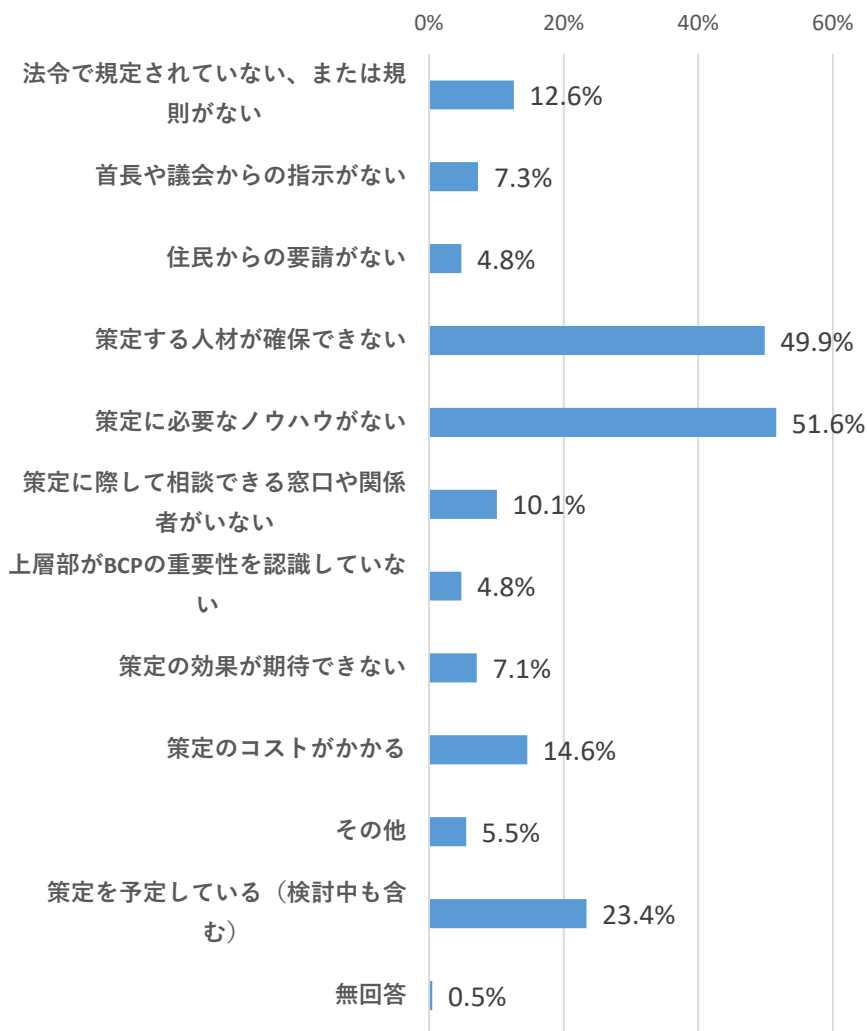
- B C P (事業継続計画)を策定済み
- B C P (事業継続計画)を策定中
- B C P (事業継続計画)を策定するかどうか検討中
- B C P (事業継続計画)を検討したことがない
- 無回答

業務継続計画（BCP）を策定しない理由

福田充ら(2016) 全国自治体・企業アンケート調査より

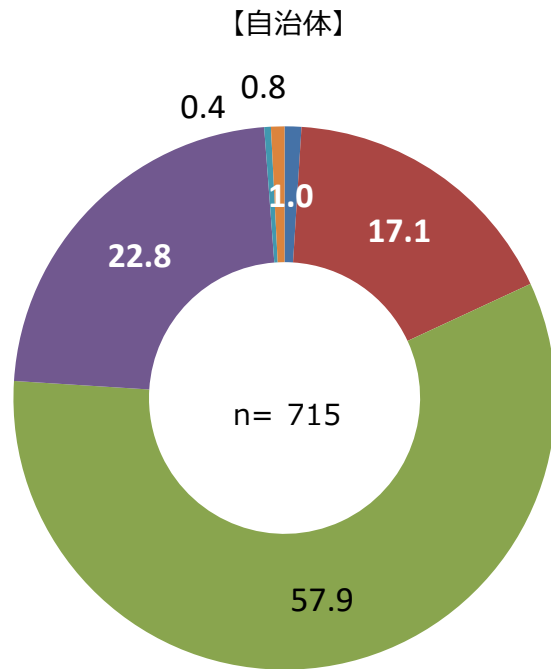
自治体 (N=397)

企業 (N=50)

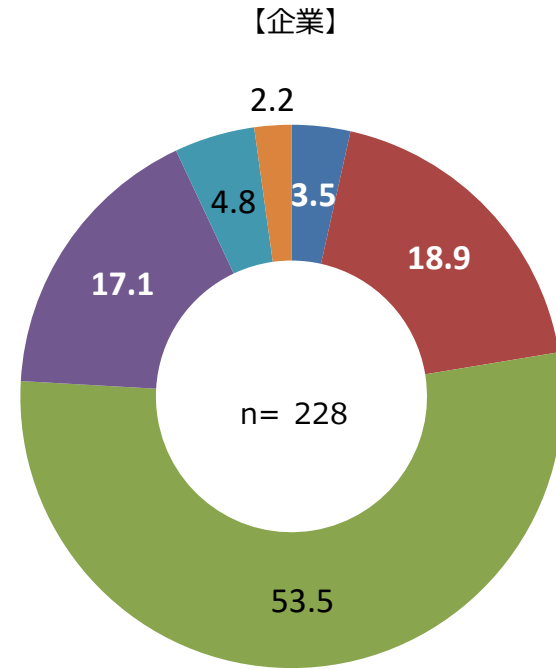


危機管理担当者の人員

福田ら(2016)

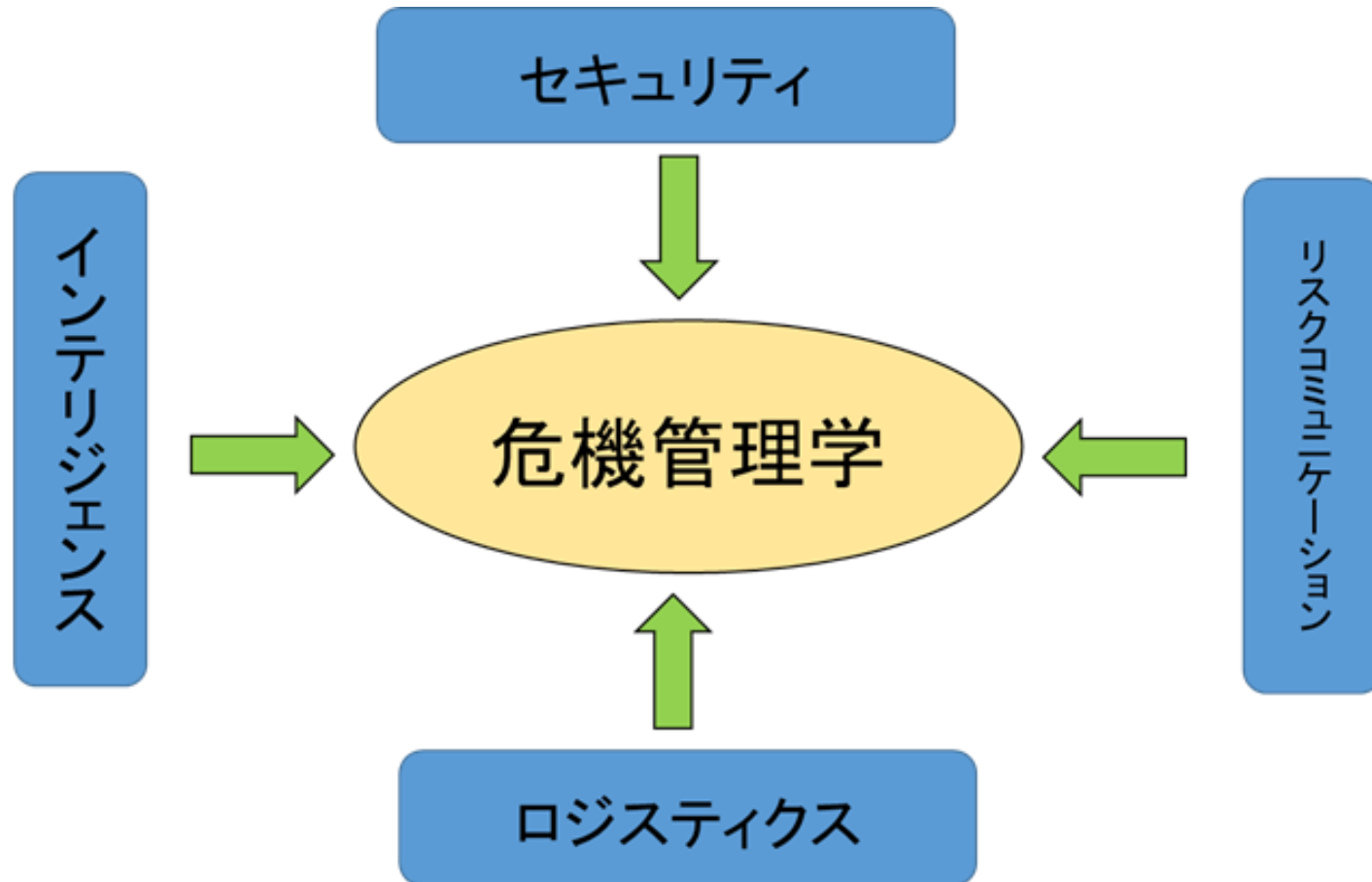


- 十分足りている
- 何とか足りている
- あまり十分ではない
- 全く足りていない
- 人員はそもそも必要ない
- 無回答



- 十分足りている
- 何とか足りている
- あまり十分ではない
- 全く足りていない
- 人員はそもそも必要ない
- 無回答

危機管理学の4機能モデル 福田(2020)



4) リスクコミュニケーション

「外出自粛」 要請

「休業」 要請 リモートワークの推奨

「学校休校措置」 要請

※ 要請とは「お願い」

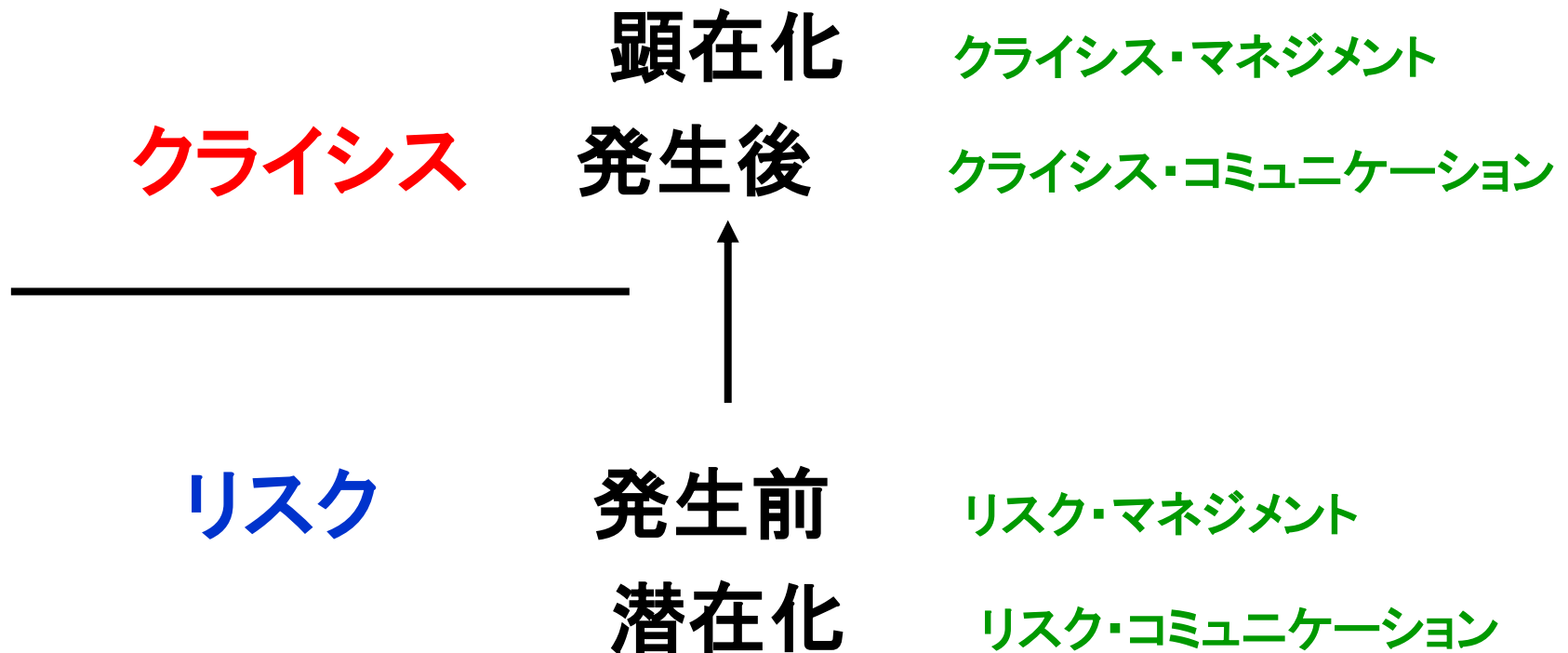
人をお願いする「説得コミュニケーション」

「リスクコミュニケーション」は

なぜ日本で効果を発揮したか？

日本人の同調圧力 お上意識？

「危機管理学」における リスクとクライシス



※ リスクとクライシスを区別して考える必要性。

危機管理の分類

リスク・マネジメント

リスク・コミュニケーション

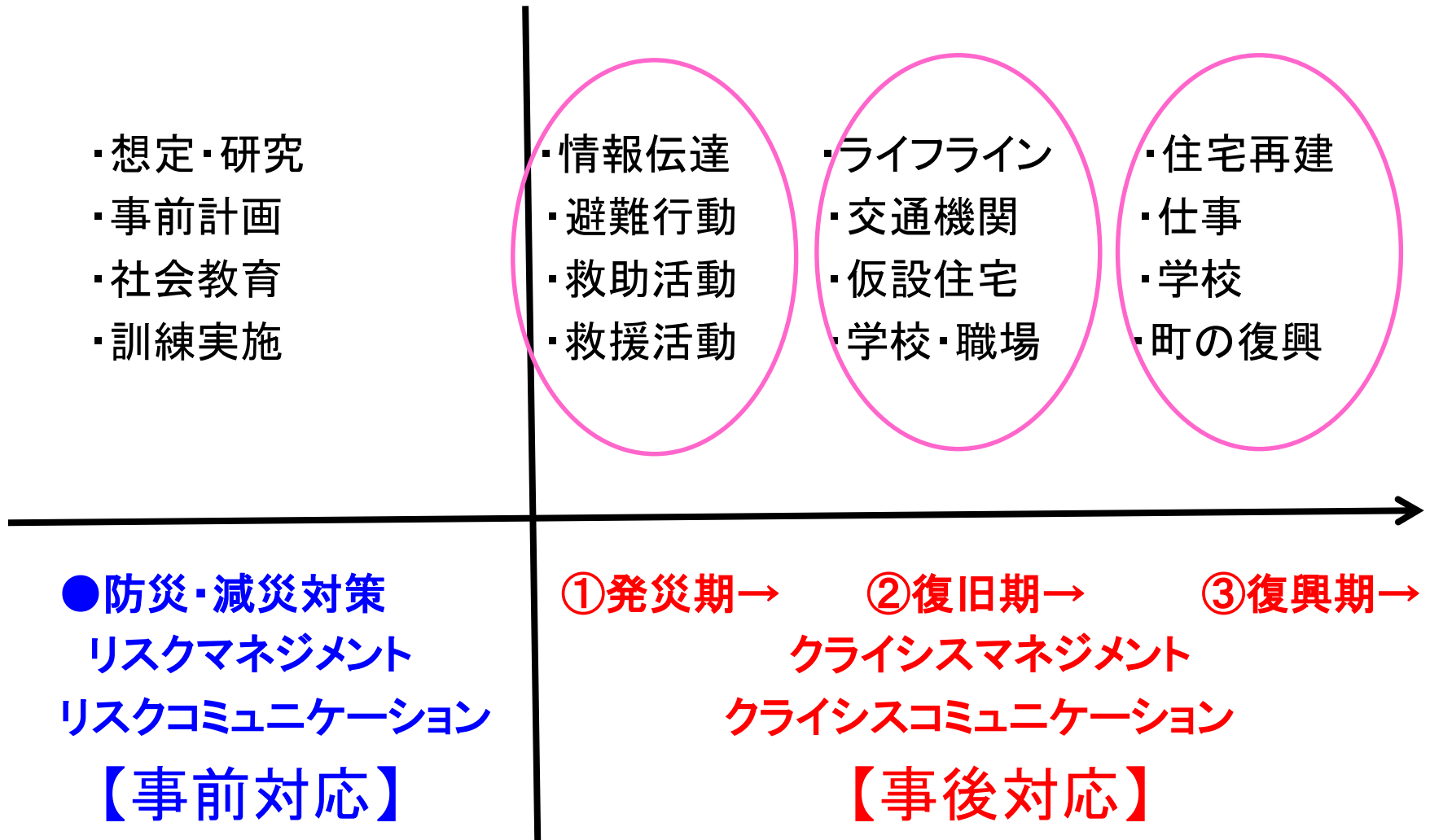
平常時に危機が起こる前に、その危機の対策を検討して準備し備えるための危機管理。

クライシス・マネジメント

クライシス・コミュニケーション

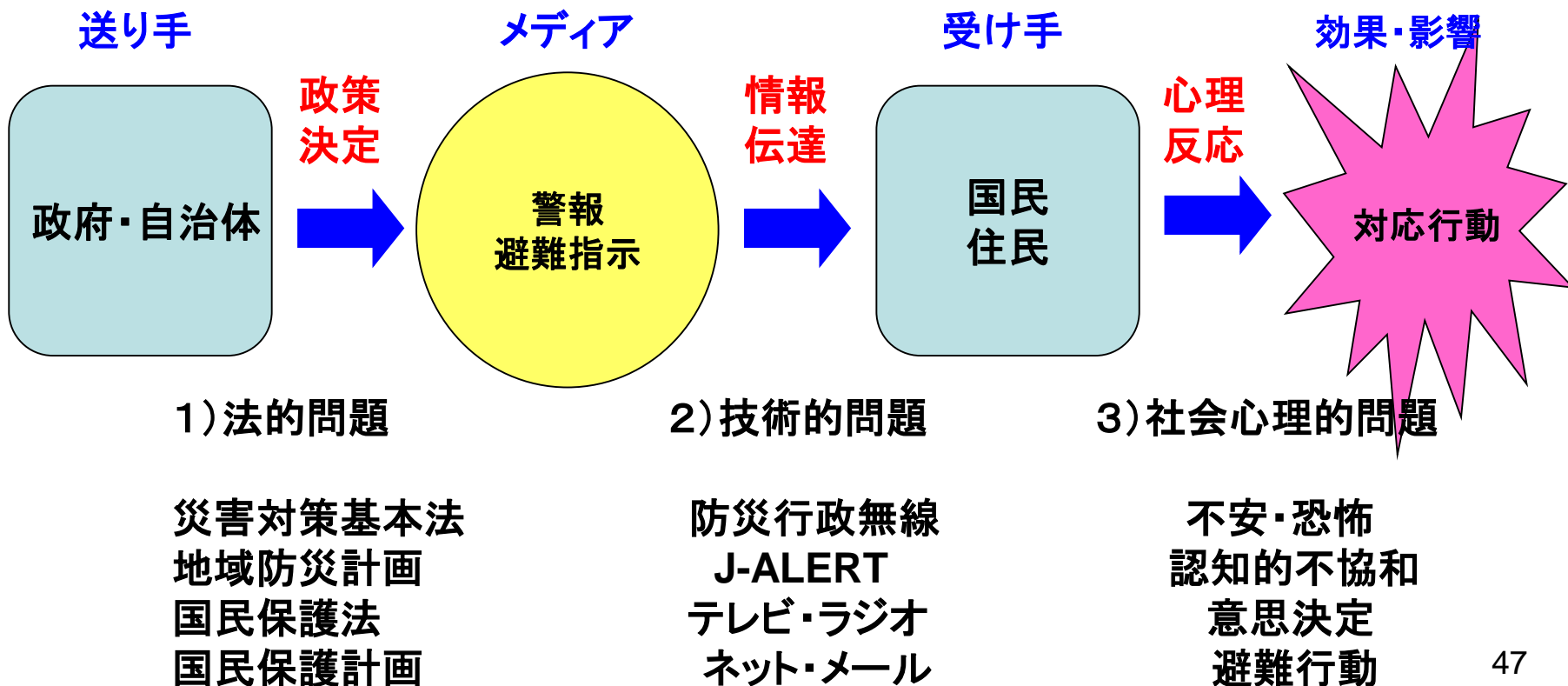
危機が発生してからその危機の被害を最小限にするための事後的な対応。危機事態における情報伝達。

危機管理のタイムライン(時間軸)



クライシス・コミュニケーション

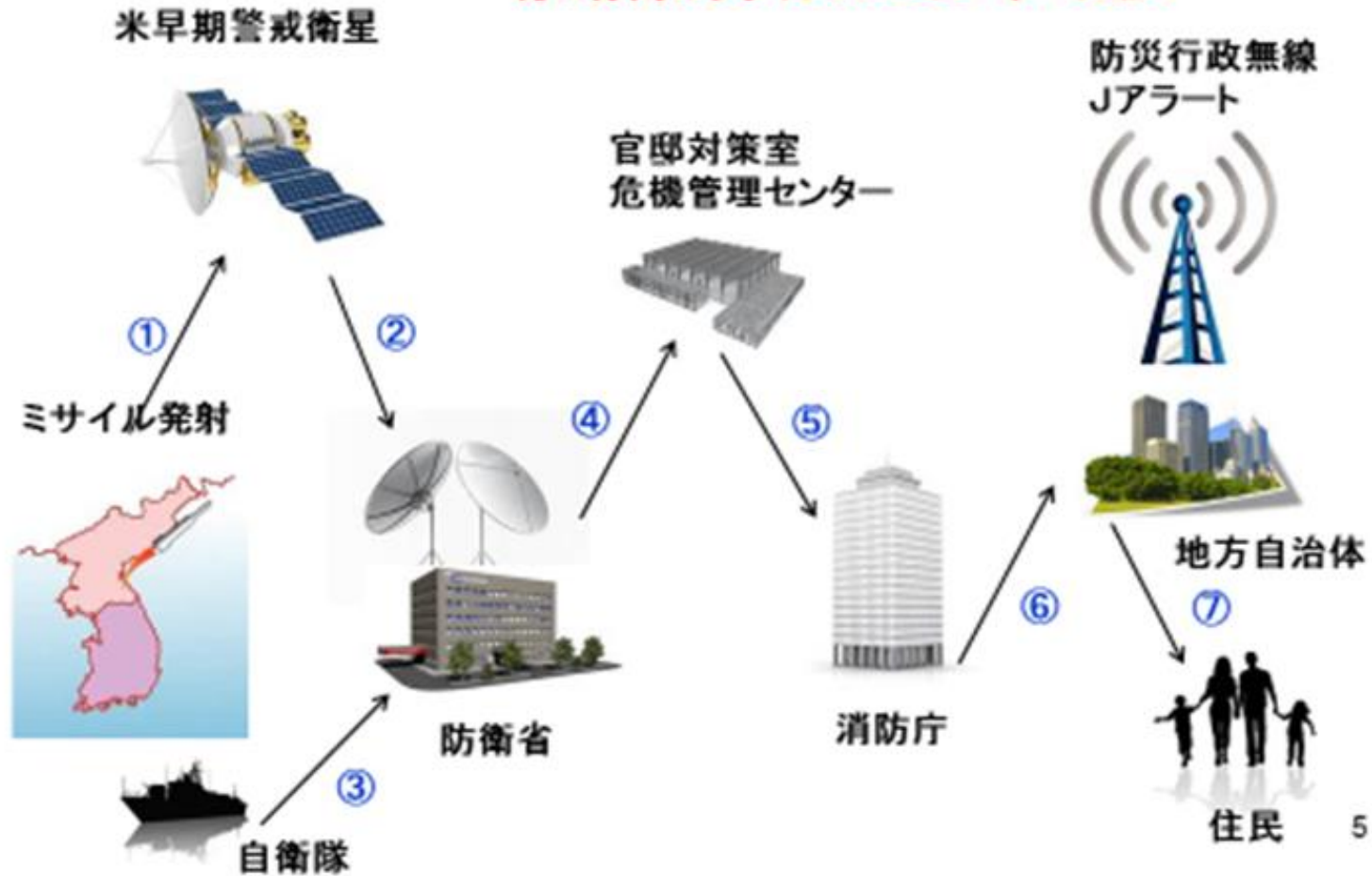
危機(クライシス)が発生した段階において、組織や個人間で行われるコミュニケーション。危機から人々の生命を守るために行われる**警報**や、**避難指示**などによるコミュニケーション。(福田, 2010)



ミサイル発射時のJアラート情報伝達

ミサイル発射に対するJアラートの情報伝達(福田:2012)

約10分間のクライシス・コミュニケーション



専門家会議からのメッセージ①

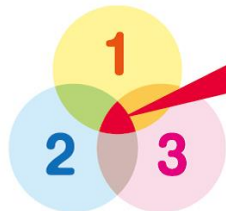
新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

3つの「密」を避けましょう!

- ①換気の悪い
密閉空間
- ②多数が集まる
密集場所
- ③間近で会話や
発声をする
密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。
日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろう場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には
消毒などを行ってください。



3密を避ける

密閉・密集・密接

3つの条件がそろう
クラスター発生リスク
これをメディアや
自治体が連日報道。
人々に伝える
コミュニケーション。

専門家会議からのメッセージ②

！感染症対策へのご協力をお願いします

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

①手洗い

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪を外しておきましょう

1



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

2



手の甲をのぼすようにこすります。

3



指先・爪の間を念入りにこすります。

4



指の間を洗います。

5



親指と手のひらをねじり洗います。

6



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

②咳エチケット

3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まるところでやる



× 何もせずに咳やくしゃみをする

× 咳やくしゃみを手でかさえる



○ マスクを着用する(口・鼻を覆う)

○ ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う

○ 袖で口・鼻を覆う

正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を確実に覆う



2 ゴムひもを耳にかける



3 隙間がないよう鼻まで覆う

首相官邸
Prime Minister's Office of Japan

厚生労働省

厚労省 検索



- ・手洗い
- ・うがい
- ・咳エチケット
- ・マスク

公衆衛生の基本
社会教育のための
リスクコミュニケーション

専門家会議からのメッセージ③

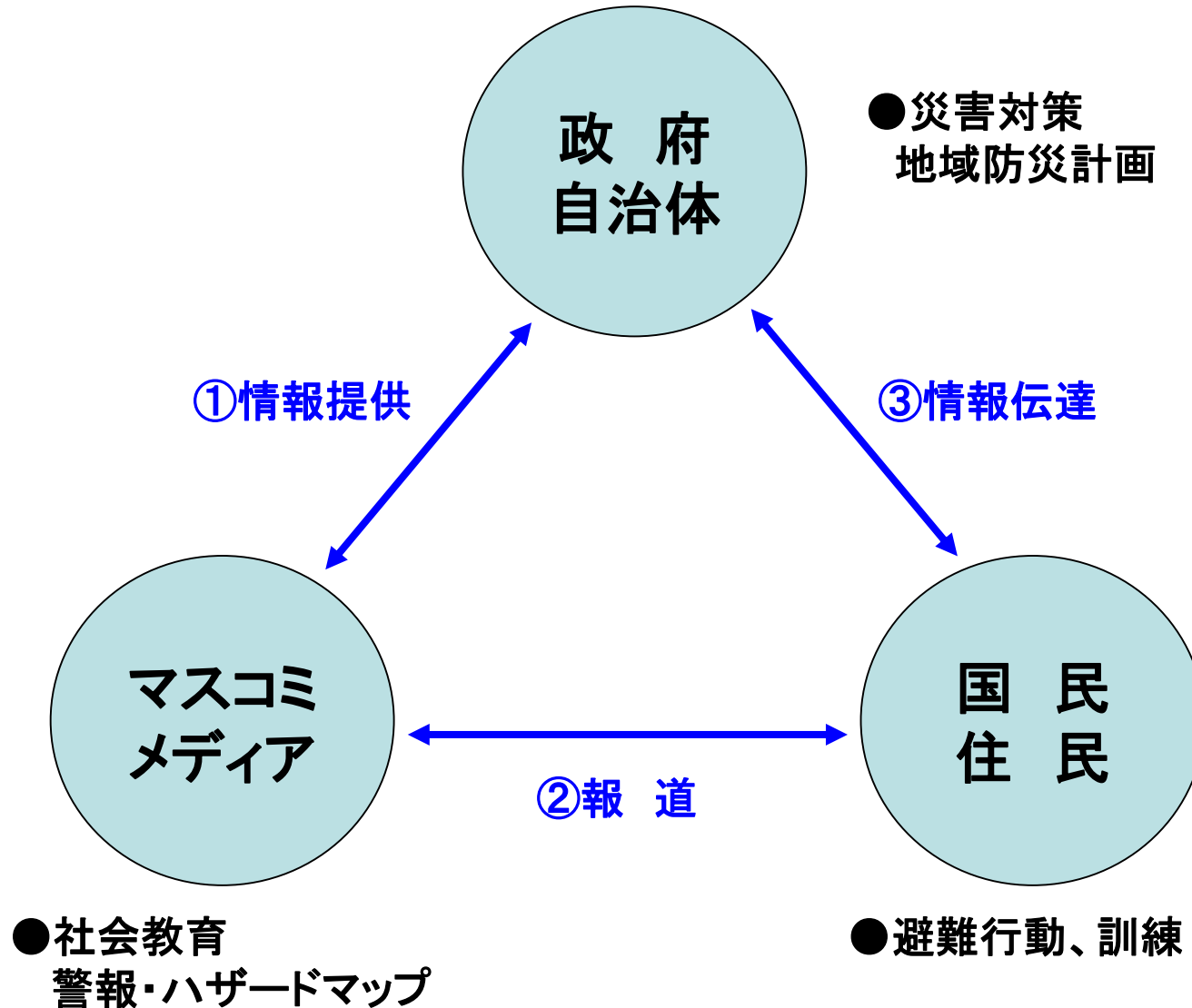
「新しい生活様式」

人との接触を8割減らす、10のポイント

緊急事態宣言の中、誰もが感染するリスク、誰でも感染させるリスクがあります。
新型コロナウイルス感染症から、あなたと身近な人の命を守るよう、日常生活を見直してみましょう。

1 ビデオ通話で オンライン帰省 	2 スーパーは1人 または 少人数で すいている時間に 	3 ジョギングは 少人数で 公園は すいた時間、 場所を選ぶ 
4 待てる買い物は 通販 で 	5 飲み会は オンライン で 	6 診療は 遠隔診療 定期受診は間隔を調整 
7 筋トレやヨガは 自宅で動画を活用 	8 飲食は 持ち帰り、 宅配も 	9 仕事は 在宅勤務 通勤は医療・インフラ・ 物流など社会機能維持 のために 
10 会話は マスク をつけて 	3つの密を 避けましょう 1. 換気の悪い 密閉空間 2. 多数が集まる 密集場所 3. 間近で会話や発声をする 密接場面	
		手洗い・ 咳エチケット・ 換気や、健康管理 も、同様に重要です。

リスク・コミュニケーションの概念図



リスクコミュニケーションの定義

●National Research Council(1989)

社会のさまざまなリスクに関するメッセージ
(risk message)について、個人、機関、集団間で
相互作用する過程である。

●福田(2010)

社会に存在するリスクについて考え、リスクに関わる
人々がとろうとするコミュニケーションの全体。

リスクについて社会においてメディアを通じて知り、
学び、市民の間で議論がなされることによって、民主
主義的に合意形成していく過程。

インフォデミック

新型コロナウイルス = パンデミック

インフォデミック = 情報のパンデミック

- ・新しい危機(未知)
- ・高度な科学性

何が正しいかが誰にもわからない状況が発生

- ・「BCGに効果がある」説
- ・「レムデシビルが効く」説
- ・「日本人にはすでに集団免疫」説

社会の集合知を形成して何が正しいかを検証し、
社会教育するリスクコミュニケーションの実践。

新型コロナウイルスでも発生

【根拠(合理性)のない事象】

- ・「トイレットペーパーがなくなる」→ 買いだめ
殺到による買い占め、買いだめ。
- ・「コロナにはイソジンが効く」 → 根拠なし
- ・「コロナにはお湯を飲むと効果的」 → 根拠なし

【根拠(合理性)のある事象】

- ・マスクの買いだめ 転売禁止
- ・衛生用品の品薄

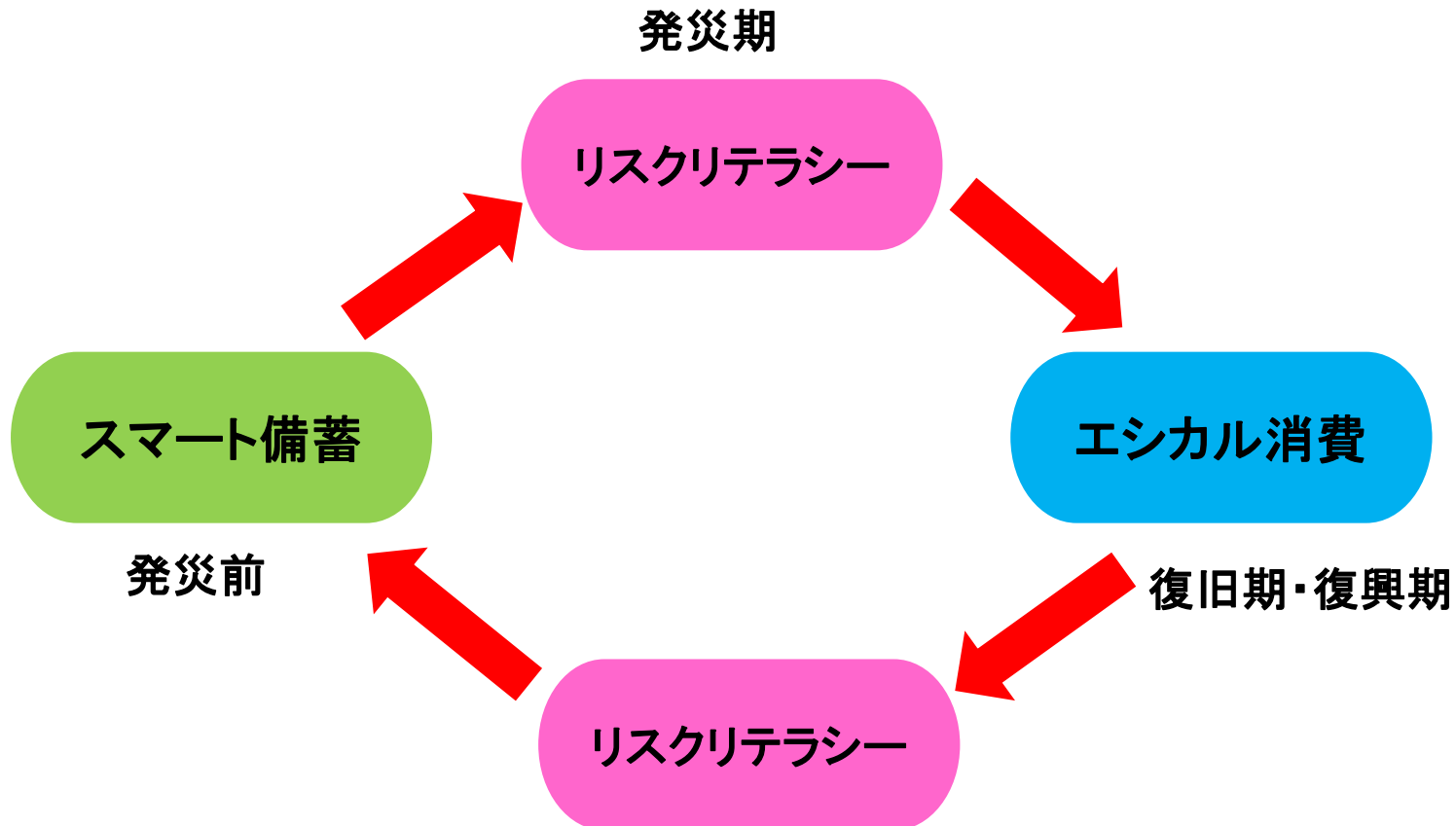
危機におけるサプライチェーンの崩壊
需給バランスの崩壊

持続可能な消費行動の社会教育

SDGsの時代

持続可能なリスク消費行動サイクルの構築

リスク時代の新しい「スマート消費」サイクル



第3部

新型コロナウイルスと リスクコミュニケーション

2度目の緊急事態宣言

2012年1月 菅義偉首相

①緊急事態宣言

=リスクコミュニケーション

②水際対策強化・出入国規制

=セキュリティ

③医療体制の強化・ワクチン接種体制確立

=ロジスティクス



緊急事態宣言の「戦術的」使用

感染症・緊急事態宣言のあり方

「①早く、②強く、③短く」

昨年4月の緊急事態宣言＝戦略的使用

今年1月の緊急事態宣言＝戦術的使用

飲食業界を中心に限定的に対策

「①遅く、②弱く、③長く」 長引く可能性

社会的効果が弱く、行動変容が発生しない

行動変容の難しさ

冬場からの感染拡大

20代～30代の感染拡大増（外出・会食）

正常性バイアス・正常化バイアス

（自分は大丈夫、大したことないという心理）

他人事＝自分事にできない

当事者意識を持ってない

恐怖・危機感の薄れ、麻痺

それを乗り越えるリスクコミュニケーション

新型コロナウイルスの症状レベル

- ①感染しない
- ②感染した → 人に感染させるリスク
- ③発症しない → 人に感染させるリスク
- ④発症した → 人に感染させるリスク
- ⑤重症化しない → 人に感染させるリスク
- ⑥重症化した → 人に感染させるリスク
- ⑦回復した → 人に感染させるリスク
- ⑧死亡した

※感染しても発症しない人が行動して他人に感染拡大させている状況 →これを理解しない人に社会教育

感染経路の状況

「家庭内感染」の増加

経路不明の増大

「外食・会食」での感染

家庭内ではウイルスは発生しない

必ず外部から、誰かが家庭内に持ち込む

①どこから持ち込んでいるのか？

持ち込みの防止＝外出・会食を減らす

②家庭内・同居生活内での感染予防

家の中でも予防行動を徹底する

感染症とリスクコミュニケーション

新型コロナウイルスなど新感染症対策こそ
リスクコミュニケーションが重要

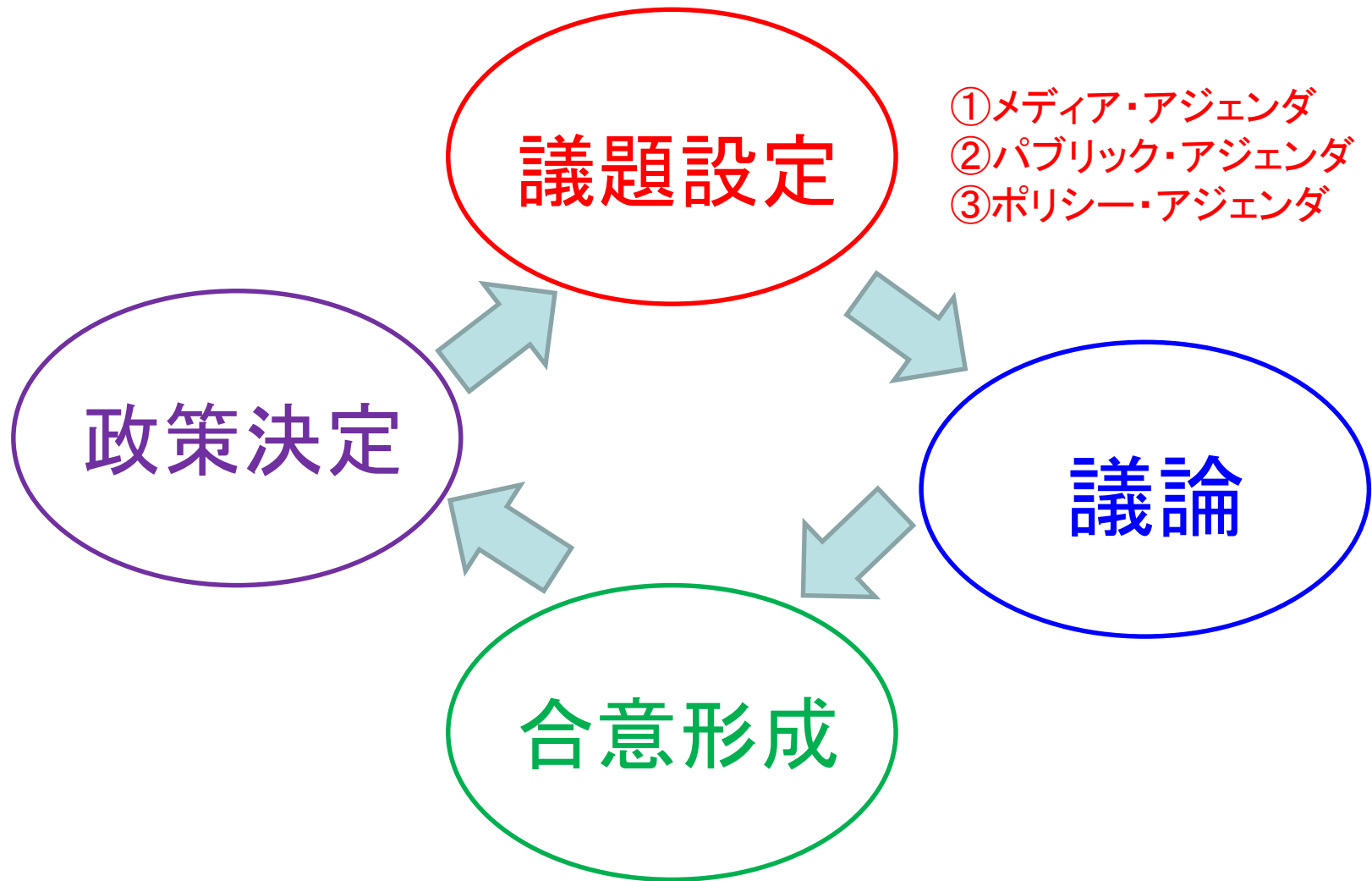
国民市民一人一人の理解・納得と

それによる行動変容が発生してはじめて

感染予防が達成される

- ①政府・自治体による説得コミュニケーション
- ②メディア報道によるリスクコミュニケーション
- ③学校・職場でのガイドラインと徹底
- ④家庭での議論・教育

リスクの合意形成サイクル



※このサイクルを平常時において時間をかけて冷静に合理的に実施すること。

リスクマネジメントのプロセス

(日本リスク研究学会,2000)

①リスクソース (リスク源)

さまざまなリスクの原因から、

②リスクパーセプション (リスク認知)

リスクを認識し、

③リスクコミュニケーション

リスクに関連して情報収集し、情報伝達して、

④リスクアセスメント (リスク評価)

リスクを構造的に把握して評価し、

⑤リスクマネジメント (リスク管理)

リスクを軽減、防止、回避する方策を立てる。

意識改革の必要性

- ①ダメージコントロール思考
- ②「ゼロリスク」はない
- ③「受容可能リスク」(acceptable risk)
- ④公助依存体質からの脱却

市民の一人一人から、社会教育

政府・自治体・企業にもメディアにも意識改革が必要

リスクコミュニケーション

なんとなく空気に支配されたなし崩しの対症療法
やり過ぎし経験を教訓として次の危機に活かさない

【体質改善】

ポストトゥルース時代

フェイクニュースにだまされないメディアリテラシー

市民の**リスクリテラシー**の向上

多様なメディア、ジャーナリズムの育成

危機に関する**集合知**の形成

そのために平常時から危機を想定し、議論し、

合意形成するプロセス = **民主主義**

レジリエンスを高める危機管理

- 1) オールハザード・アプローチであること
- 2) 危機管理の4機能を備えること
- 3) ハード対策とソフト対策の両立
- 4) リスクマネジメントとクライシスマネジメント
- 5) 自助・互助・共助・公助のバランス

ご清聴ありがとうございました。



詳細は、「[福田充研究室ホームページ](http://fukuda326.o.oo7.jp/)」へどうぞ。
<http://fukuda326.o.oo7.jp/>

参考文献もご覧ください。



『リスク・コミュニケーションとメディア』北樹出版



『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』北樹出版



『テロとインテリジェンス』慶應義塾大学出版会



『メディアとテロリズム』新潮新書